

全 体 報 告 書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
現状・課題	<p>嬉野の豊かな茶文化は長い歴史を持ちながらも、市民や茶業関係者の間で広く共有されているとはいえない。度重なる市街地火災により一次資料が失われ、近代化により各家庭で製茶を行っていた時代の遺構や製茶技術も損なわれつつある。また、高齢化も進み当時を知る人物も稀少となり伝承が困難となっている。現代では機械化が進み、手揉み釜炒り茶生産は数少なくなっているが、日本茶を語る上で欠かすことの出来ない手揉み釜炒りという伝統的な技術と文化を後世に継承する責任があると考えている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉野に根ざした茶文化を通じてシビックプライドを形成し、文化財登録を目指す。 ・全国シンポジウム内にてブースを設け里山保全や茶畑保護について広く周知を行うことで、市民へのうれしの茶文化の理解促進を図り、また釜炒り茶の試飲を実施することで、釜炒り文化の継承に繋げる。 ・技術・文化の喪失が危ぶまれる手揉み釜炒り茶の文化技術をきちんとした調査報告書、記録動画作成を行い、市施設での常設展示を行うことで後世へと引継ぐ。 ・大浦慶が行った輸出茶の各産地と連携し、各茶産地の概略や茶にまつわる名所をまとめつつ、調査報告書を利用するなどして一冊のパンフにまとめ地場産業の活性化、釜炒り茶のPRへ繋げる。
事業概要	<p>(1) 調査研究事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手揉み釜炒り茶(玉緑茶)の調査報告書作成及びアーカイブ化 <p>有識者会議の実施や昔ながらの手揉み、唐釜で炒る方法での製法などを含めた玉緑茶についての調査報告書の作成及び、手揉み釜炒り製法のアーカイブ化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜炒り茶の輸出の歴史と他産地とのつながりを冊子化 <p>大浦慶が輸出した茶の産地毎の歴史、概略や茶にまつわる名所をまとめ、調査報告書を利用して釜炒り茶の一般向けのパンフレットとして一冊にまとめる。</p> <p>(2) 保護継承事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜炒り茶のふるまい会の実施 <p>全国シンポジウム内にてブースを設け里山保全や茶畑保護について広く周知を行うことで、市民へのうれしの茶文化の理解促進を図り、また釜炒り茶の試飲を実施することで、釜炒り文化の継承に繋げる。</p> <p>(3) 発信等事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市施設での常設展示化 <p>アーカイブ化した映像を市のHPやうれしの茶交流館「チャオシル」の常設展示で公開し常設展示とする。</p>
事業全体での成果・効果	<p>本事業に取り組むことで、嬉野の貴重な文化である手揉み釜炒り茶文化についての継承活動に使用のできるアーカイブやパンフレット作成を行うことができた。今後はこれらを活用して手揉み釜炒り茶文化の継承、継承者育成に役立てていきたい。今回作成したアーカイブやパンフレットについては、うれしの茶交流館「チャオシル」での常設展示を行う予定としている。手揉み釜炒り体験を含むチャオシルでの大きなコンテンツの一つとして活かして、年間来館者数3万人をめざす。</p> <p>また今回、文献・実地調査、聞き取り調査を行ったが、貴重な歴史や文化が喪失する前に写真や動画での記録を残すことや手揉み釜炒り茶に関わる文献について整理することができた。文化財登録を目標に活動を行っているため、今回の調査内容を元に更に調査を深めていきたい。</p>

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区 分	(1) 調査研究事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>①有識者検討会の開催, ②文献・実地調査の実施, ③調査報告書・記録動画等の作成</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>①有識者検討会の開催 年3回 ・嬉野釜炒茶協議会などを含めた関係団体で作る協議会での検討会の実施 今年度、うれしの釜炒り茶文化継承検討委員会を発足し、3回(8月28日、11月27日、2月26日) 有識者による検討会を開催し、事業報告書についての協議を行った。報告書内での、歴史事項 や報告書の構成などについて協議会内で協議を行い、報告書の作成を進めた。</p> <p>②文献・実施調査の実施 ・現在にも残る釜炒り施設や文献による調査 現在も手揉み釜炒り茶の製造を行っている茶農家や地域での手揉み釜炒り茶製造に関わってい た方、手揉み釜炒り茶保存会への聞き取りの実施。現存する唐釜や釜炒り茶製造機械の現地調 査を実施した。また、現在に残る嬉野式の手揉み釜炒り茶に関わる文献の資料整理を実施し整 理簿を作成した。</p> <p>③調査報告書・記録動画等の作成 ・手揉み釜炒り茶(玉緑茶)についての調査報告書とアーカイブの作成 文献実地調査の調査内容や委員会内で協議を行った事柄について調査報告書の作成と手揉み釜 炒り茶文化の継承を軸とした動画の作成。嬉野釜炒り茶文化について一般の方に学んでいただ けるようなパンフレットの作成を行った。</p>
成 果・ 効 果	<p>①有識者検討会の開催 年3回 ・嬉野釜炒茶協議会などを含めた関係団体で作る協議会での検討会の実施 今年度、うれしの釜炒り茶文化継承検討委員会による嬉野釜炒り茶文化継承検討委員会を開催 し、報告書内での、歴史事項や内容、報告書の構成などについて協議会内で協議を行い、報告 書の作成を進めた。また、報告書内容についても適宜、委員の皆様にご配布を行い修正について のご指摘をいただくことで、委員の皆様による細かな指摘事項を取り込んだ報告書を作成する ことができた。</p> <p>②文献・実施調査の実施 ・現在にも残る釜炒り施設や文献による調査 手揉み釜炒り茶の製造に関わっていた方々への聞き取りを行うことで、高齢化の進む釜炒り茶 保存会や関係者の生の声を聞き、記録として残すことができた。また今となっては貴重な唐釜 や釜炒り茶製造機械の現地調査を実施しこちらについても写真などの記録を残すことができ ている。現在に残る嬉野式の手揉み釜炒り茶に関わる文献の資料整理を実施し整理簿を作成する ことで今後の継続した調査についても行いやすいようにしている。</p> <p>③調査報告書・記録動画等の作成 ・手揉み釜炒り茶(玉緑茶)についての調査報告書とアーカイブの作成 文献実地調査の調査内容や委員会内で協議を行った事柄について調査報告書の作成と手揉み釜 炒り茶文化の継承を軸としたアーカイブの作成を実施している。嬉野釜炒り茶文化継承検討委 員会内で放映会を行い、委員の皆様より高い評価をいただくことができた。また、現在、嬉野 の釜炒り茶文化について一般の方に見て学んでいただけるようなパンフレットの作成を行っ ており、アーカイブとパンフレットについてはチャオシルでの設置を行っている。</p>

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区分	(2) 保護継承事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>①全国シンポジウム内ブースの設置 ②食文化の継承者の育成</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>①全国シンポジウム内ブースの設置 ・全国シンポジウム内にてブースを設け里山保全や茶畑保護について市民へ広く周知を行う。 また釜炒り茶の試飲を実施することで釜炒り茶の伝承を行う。 全国水源の里シンポジウム(11月21日～11月22日)が嬉野で開催された。里山保全や茶畑保護について市民だけでなく全国から来場された方々へ向けて周知を行っただけでなく、嬉野釜炒り茶を実際に試飲いただき、パネル展示を行うことで全国の方に嬉野釜炒り茶文化のPRを行った。嬉野釜炒茶協議会にご協力いただき、当日は手揉み釜炒り体験を実施し、市外の皆様にも体験いただき、手揉み釜炒り文化を広めることが出来た。</p> <p>②食文化の継承者の育成 ・手揉み釜炒り茶技術の継承者の募集と育成。 手揉み釜炒り茶技術の継承のため、嬉野茶業青年会と嬉野釜炒茶協議会の合同勉強会の開催。 うれしの茶交流館「チャオシル」職員への手揉み釜炒り茶技術習得のための体験会の実施。</p>
成果・効果	<p>①全国シンポジウム内ブースの設置 ・全国シンポジウム内にてブースを設け里山保全や茶畑保護について市民へ広く周知を行う。 また釜炒り茶の試飲を実施することで釜炒り茶の伝承を行う。 全国水源の里シンポジウム(11月21日～11月22日)が嬉野で開催された。里山保全や茶畑保護について市民だけでなく全国から来場された方々へ向けて周知を行っただけでなく、嬉野釜炒り茶を実際に試飲いただき、同時に嬉野の歴史や釜炒り茶について学んでいただけるようパネル展示を行うことで全国の方に嬉野釜炒り茶文化のPRを行うことができた。同時に嬉野釜炒茶協議会にもご参加いただき、シンポジウム参加者に向けた、手揉み釜炒り体験会を行い、市外に向けて手揉み釜炒り茶文化を広めることが出来た。今回展示会や体験会にご参加いただいた皆様には、アンケートをとり、市外の皆様の釜炒り茶文化に対する考えなども集めることが出来た。これらの結果については報告書にまとめている。アンケート結果については今後の課題として参考にさせていただく。</p> <p>②食文化の継承者の育成 ・手揉み釜炒り茶技術の継承者の募集と育成。 手揉み釜炒り茶技術の継承のため、嬉野茶業青年会と嬉野釜炒茶協議会の合同勉強会を開催した。嬉野茶業青年会の方々にも非常に興味をもって取り組んでいただくことができたので、来年度、新茶シーズンでは、継続して手揉み釜炒り茶習得のため、活動に参加いただく予定。また、茶の端境期では、再度研修会を開催し、手揉み釜炒り茶の技術習得に繋げていきたいと考えている。現在、うれしの茶交流館「チャオシル」職員は、来館いただいたお客様へ手揉み釜炒り体験を行っている。今後の手揉み釜炒り茶文化の更なる普及のため、改めて勉強会を実施し、手揉み釜炒り茶技術の習得を行っていただいた。</p>

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区 分	(3) 発信等事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>①食文化関連施設等を活用した食文化の発信、学び体験の機会・場の提供</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>①食文化関連施設等を活用した食文化の発信、学び体験の機会・場の提供 ・うれしの茶交流館「チャオシル」での調査報告書・アーカイブの常設展示化 本事業を通して今回作成を行った調査報告書とアーカイブ、パンフレットについてうれしの茶資料館であるうれしの茶交流館「チャオシル」での常設展示を行っている。来館された、お客様に対して、広く公開しうれしの釜炒り茶文化について知っていただけるようにする。</p>
成 果・ 効 果	<p>うれしの茶交流館「チャオシル」での調査報告書の設置と本事業で製作を行った動画やパンフレットの常設展示を行っている。これらを公開することで、一般の来館者へ広くうれしの釜炒り茶文化を知っていただくきっかけ作りができるようになった。今後は、これらの設置について外部への発信を進めていきうれしの茶交流館「チャオシル」での来館者数の底上げを進め、年間来場者数3万人を目指していく。また、アーカイブやパンフレットについては、嬉野釜炒茶協議会でも配布の出来る様にし、手揉み釜炒り体験や釜炒り茶のPR販売などの場でもしっかり使用して釜炒り茶文化についてお客様にもわかりやすく知っていただけるようにする。</p>